

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属金剛幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力』と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ② 研修の参加や年度末に自己評価をおこなうなど教員の資質の向上を目指す。
 - ③ 実習に来る学生一人一人に寄り添いながら指導、育成を行う。
- 2 特色ある教育活動の展開
 - ① 専門の教員による指導
- 3 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ① 園児の健康観察及び予防に努める
 - ② 園全体における感染症対策の徹底
 - ③ 園全体における安全対策の徹底
- 4 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室や未就園児園庭開放のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する。
 - ・園庭開放に来た保護者への相談・支援を行う。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ① 定期的な会議	A	一日の保育内容、子どもたちの様子や出来事を話し合い、より良い保育が行えるように努めた。
② 研修や自己評価による教員の資質向上	A	園外での研修、附属4園ごとの研究発表等学びの機会を多く作った。また年度末に自己評価を行い保育を振り返ることができた。
③ 実習生の育成	A	芸大生、卒園児（他校生）等の実習を受け入れ、指導方針を職員間で共有しながら学生それぞれの個性に対応し、適切な育成ができた。
2 ① 特色ある教育活動の展開	A	音楽指導、体育指導、英語活動、お茶、柔道、作陶などは専門教員による楽しい指導により子ども達も生き生きと活動できている。 自然豊かな環境を生かした遊びや環境づくりを行った。
3 ① 園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施。また、保育中、体調の変化が見られた時には、保護者に連絡したり、降園時に伝えたりしている。
② 感染症対策	A	手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置。 清掃の方による階段の手すり、扉等の随時消毒。 定期的な遊具や玩具、机・いすなどの消毒。
③ 安全対策	B	毎月の避難訓練は、火災、地震、防犯訓練や交通安全教室を組み入れ、年間計画を立て行っている。 消防署、警察署の方による指導、訓練の実施。 常駐の警備員設置。業者による総合遊具の点検。
4 地域との連携と子育て支援の充実	B	未就園児対象のおやこ教室、園庭開放を開催し、参加者と園児、保育者との交流もできるようにした。インスタグラムでおやこ教室の様子を掲載したり、「ハーモニー通信」や市政だよりでおやこ教室、園庭開放の周知を行った。参加しやすいように申し込みQRコードを作成した。 地域の交流会、子育て支援の会議に参加し情報交換に努めた。 毎年開催されるイベントでペットボトルツリーの展示に参加している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	- 自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 - 保育計画、活動内容を見直しバランスの良い充実したカリキュラムを考える。 - 登降園時に園児の様子を保護者に伝えるよう心がけ、安心につながるよう努めた。 - クラスだよりを発行してクラスの様子を具体的に知らせたり、HPやInstagramでは写真を掲載して行事や園生活の様子を知らせたりするようにした。 - 未就園児やその保護者にも声をかけ、コミュニケーションを取り、交流できるように努めた。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	・毎月の避難訓練や防災研修を通じて、緊急時の対応やAEDの使用方法について職員間で共通認識を深め、継続的に確認、共有していく。 ・園全体の環境整備、安全点検をしっかりと行う。
保護者同士の交流	・登降園時、車で送迎の方も多く保護者同士の交流があまり持てない為、園庭開放や「縁日ごっこ」を保護者参加型で行う機会を作った。 - 保護者同士の交流ができるような場を今後も計画していく。
園のPRと園児数の確保	・園の様子をHPやInstagramで情報公開し、タウン誌などへの掲載といった広報活動も引き続き行い、本園の良さを広めていく努力を行う。 ・未就園児教室や園庭開放や見学会などの開催計画、周知時期を早めたり、申し込み方法の改善を行い、園に足を運びやすいような環境を引き続き整えていく。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 園の先生方が子ども達のことをよく知っており、声をかけてくれることが嬉しい。
- 職員同士で子ども達のことをよく話し、活動内容もそれぞれの先生が把握している。
- 保護者の安心が子ども達の安心に繋がり、自己肯定感も強くなる。
- 保護者間の交流を増やすため、園庭開放に加え、「縁日ごっこ」を保護者参加型で行った。
- 季節を感じられる取り組みや野菜の栽培など、家庭行うのは難しいのでありがたく思う。
- 園の様子をHPやSNS、広報誌などによる周知活動にも、より力を入れると良い。
- 他学年との交流も自然とできており、子どもの成長をととても感じることができる。
- 自分が親切にされた経験が、下の子に優しくしてあげるといふ好循環が生まれている。
- 感染症などが流行した際、園での感染状況を掲示板で知らせるなどの対策があると良い。
- のんびりとした環境、人工芝という特徴のある環境で健康的に心身共によく育っている。
- 安全対策が地域と一緒に連携できていることがとても良いことだと思う。

7. 公開保育について

実施日時	令和7年11月11日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属金剛幼稚園
保育者	あやめ1組担当教諭
テーマ	お菓子の家を作る
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 特任教授
参加者	こども園保育教諭、富田林市職員、幼稚園園長・副園長・主事・主任、育友会会長、大学院生
総評	子ども達がワクワクしている気持ちがわかり、最後まで楽しむ姿が見られました。先生は子ども達の様子に合わせて誘導していたため、嫌がる子もおらず、子ども達自身が興味のあるものやできる活動を選んでいました。遊びを楽しむための準備にそつがなく、安心して見ていられました。まだまだやりたい楽しい活動ということが、表情や言葉からも伝わってきて、見ていて嬉しい気持ちになりました。子ども達が満足できる活動でとても良かったです。今日も遊びがいつしか学びになる場面がたくさんありました。これからも学びを意識して保育を進めていく事で、小学校につながっていくと思います。